

おわりに

新型コロナウイルス感染症の影響により、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等において、全国的な臨時休業措置という状況で年度末を迎えることになりました。学び舎に登校することができず、自宅学習やデイサービス等での活動を余儀なくされている児童生徒の心身の状態や学習活動の停滞が気になる毎日です。私たち教職員も、健康管理に留意するとともに、一日も早く感染拡大が収束し、笑顔で元気いっぱいの子供たちが学校へ戻ってくることを願うばかりです。

さて、本校は、県内唯一の知的障害教育部門と肢体不自由教育部門の併置校であり、児童生徒一人一人の実態や障害特性に応じて、将来の自立と社会参加に向けて子供たちの可能性を精一杯伸ばすことを念頭に、日々の教育活動を展開しております。その中で、今年度は、教育活動を展開していく上で重要な議論の場となる『カリキュラム・マネジメント推進委員会』を立ち上げ、本校・分教室を含めた全校的な観点から、「教育活動の質的向上に関する課題解決」や「カリキュラム・マネジメントの好循環の創出と維持」などに取り組み、これからの時代に求められる教育に正面から向き合っております。

そこで、今年度の研究は、平成三十年代からの三年計画の二年次として、【「社会に開かれた教育課程」の検討 ～基本的な考え方に基づいた指導内容等の整理と、『単元別指導計画表』を活用した授業づくり～】という全体研究テーマで取り組んできました。この研究では、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、本校の基本的な考え方を明確にし、「育成すべき資質・能力」を身に付けさせるための指導内容等を整備した『単元別指導計画表』を活用した授業を実践し、これが授業改善や教育課程編成へつながるツールと成り得たかどうかを検証することを目的としています。研究の内容としては、一年次に作成した「単元別指導計画表」を実際に運用し、国語科及び算数・数学科、生活単元学習等の授業において、授業計画立案・授業実践・授業評価・授業改善を通して様式を改良するとともに、「育成すべき資質・能力の三つの柱」や教科等横断的な視点に立った資質・能力である「本校の育てたい力」を視野に入れた目標設定や評価の在り方等の検討及び主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業づくりの研究を進めました。その成果と課題については、本編をご覧いただいたとおりですが、令和二年度の研究では、今年度の成果の検証と課題改善の他、他教科の「単元別指導計画表」を作成、小中高の系統性のある年間指導計画の再編成、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりの更なる検討などをしていく予定です。

本校の研究を進めるにあたり、今年度は、長崎県教育センター研修部教育支援研修課特別支援教育研修班から講師を招き、『特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」について』という研修テーマで講義をしていただき、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について、多くのヒントを得ることができました。また、関係の皆様からたくさんの御助言をいただきましたことも併せて感謝申し上げます。

最後になりますが、令和二年度は、三年間の研究のまとめの年となります。これまでの研究を実践して検証するとともに、これから私たちが「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、カリキュラム・マネジメントを推進していく上での道標のひとつとなる「単元別指導計画表」を改善して完成させ、教育活動の質の向上を図っていきたいと考えております。そのためにも、この二年次の研究のまとめを御一読いただいた皆様から、忌憚のない御意見・御助言をいただくと幸いに存じます。